

授業科目		コンピュータ概論			単位／時間		156時間	
開講学科等		システム工学科 1 年			担当教員		川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ		コンピュータの「基礎理論に関する知識」について幅広く学習する。						
授業の到達目標		以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験 3 級、2 級 1 部 国家試験・基本情報技術者試験 科目 A 免除試験						
授業の計画	1	2h	テキストⅠ 基礎理論 (1-1～1-2)			26	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 6
	2	4h	テキストⅠ 基礎理論 (1-3～1-6)			27	2h	テキストⅡ データベース (2-1～2-3)
	3	3h	テキストⅠ 基礎理論 (1-7～1-10)			28	2h	テキストⅡ データベース (2-4～2-6)
	4	3h	テキストⅠ 基礎理論 (1-11～1-13)			29	3h	テキストⅡ データベース (2-7～2-10)
	5	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 1			30	2h	テキストⅡ データベース (2-11～2-12)
	6	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 2			31	3h	テキストⅡ データベース (2-13～2-15)
	7	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング (2-1～2-6)			32	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その 1
	8	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング (2-14～2-17)			33	3h	テキストⅡ ネットワーク (3-1～3-5)
	9	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素 (3-1～3-3)			34	3h	テキストⅡ ネットワーク (3-6～3-10)
	10	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素 (3-4～3-6)			35	2h	テキストⅡ ネットワーク (3-11～3-13)
	11	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素 (3-7～3-8)			36	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その 2
	12	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素 (3-9～3-10)			37	3h	テキストⅡ セキュリティ (4-1～4-3)
	13	2h	テキストⅠ コンピュータ構成要素 (3-11～3-12)			38	3h	テキストⅡ セキュリティ (4-4～4-6)
	14	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 3			39	3h	テキストⅡ セキュリティ (4-7～4-9)
	15	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 4			40	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その 3
	16	2h	テキストⅠ システム構成要素 (4-1～4-3)			41	59h	問題演習
	17	2h	テキストⅠ システム構成要素 (4-4～4-5)			42		
	18	2h	テキストⅠ システム構成要素 (4-6～4-7)			43		
	19	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その 5			44		
	20	2h	テキストⅠ ソフトウェア (5-1～5-3)			45		
	21	2h	テキストⅠ ソフトウェア (5-4～5-5)			46		
	22	2h	テキストⅠ ソフトウェア (5-6～5-7)			47		
	23	4h	テキストⅠ ソフトウェア (5-8～5-11)			48		
	24	3h	テキストⅠ ソフトウェア (5-12～5-13)			49		
	25	3h	テキストⅠ ハードウェア (6-1～6-3)			50		
授業の方法		講義を中心に行う。後半では練習問題を解き全体的な理解度を高める。						
テキスト		TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅠ【ベーステクノロジー編】 TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】						
参考文献		TAC科目A対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集						
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト						
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する								○
実務経験		コンピュータ業界・医療系システム開発等の経験を有する。						
実務経験の活かし方		テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。						
履修上の注意事項		復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。						

授業科目		プログラミング		単位／時間		81時間	
開講学科等		システム工学科1年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		基本情報技術者試験で出題される擬似言語を学び、処理の流れを把握しプログラムの流れを理解出来るようにする 各種検定に出題される疑似言語の問題に対応するための基礎的な力を養う					
授業の到達目標		基本情報技術者試験科目Bで出題される疑似言語の問題を読解できる力を身に付ける					
授業の計画	1	1h	アルゴリズムとは何か	26	2h	キュー	
	2	2h	変数と定数	27	2h	ハッシュ表	
	3	2h	基本制御構造その1 順次と分岐	28	2h	木	
	4	1h	変数どうしの内容の交換	29	2h	2分探索木	
	5	2h	基本制御構造その2 繰返し	30	2h	ヒープ	
	6	2h	繰返しを用いた簡単な処理	31	2h	木の巡回	
	7	2h	引数と返却値	32	2h	B木	
	8	2h	配列と繰返し処理	33	2h	グラフ	
	9	2h	2次元配列	34	2h	最短経路探索	
	10	2h	計算量	35	2h	オブジェクト指向の基礎知識	
	11	2h	最大値・最小値	36	2h	オブジェクト指向を活用したプログラム	
	12	2h	線形探索	37	1h	ファイル処理	
	13	2h	2分探索	38	1h	ファイルの併合	
	14	2h	選択法	39	1h	ファイルの突合せ	
	15	2h	交換法	40	1h	コントロールブレイク	
	16	2h	挿入法	41	4h	アルゴリズムのパターン	
	17	3h	再帰	42			
	18	2h	クイックソート	43			
	19	4h	その他の整列アルゴリズム	44			
	20	2h	文字列の照合	45			
	21	2h	文字列の置換	46			
	22	2h	文字列の圧縮	47			
	23	2h	データ構造の基礎知識	48			
	24	2h	リスト	49			
	25	2h	スタック	50			
授業の方法		講義を中心に行う。練習問題及び解説を実施し、理解度を高める					
テキスト		基本情報技術者 試験対策テキストⅣ【アルゴリズム編】					
参考文献		基本情報技術者科目B試験対策問題集【TAC】他					
評価の方法や基準		以下の内容を追加に評価し、総合的に判断する 1.出席率 2.授業態度 3.期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		SEとしてシステム開発の経験を有する					
実務経験の活かし方		プログラミングの要であるアルゴリズムの重要性を伝えるとともに、処理の流れを丁寧に解説する					
履修上の注意事項		講義で得た知識を、練習問題を解くときに活用するように意識すること					

授業科目	C 言語 I			単位／時間	42時間
開講学科等	システム工学科 1 年			担当教員	内藤 正勝
授業の目的 ・テーマ	C 言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学ぶ。				
授業の 到達目標	サートファイ C 言語プログラミング能力認定試験 3 級程度の問題を読解できる力を身に付ける。				
授業 の 計 画	1	3h	C 言語とは	26	
	2	3h	変数	27	
	3	4h	定数とリテラル	28	
	4	4h	演算	29	
	5	4h	ビット演算	30	
	6	4h	配列	31	
	7	4h	入出力処理	32	
	8	4h	判断処理 (if)	33	
	9	4h	繰り返し処理 (while, do-while, for)	34	
	10	4h	ライブラリ関数	35	
	11	4h	関数	36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。練習問題実施及び解説を反復し、理解度を高める。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理試験合格へのパスポートCプログラミング【ワイネット】他				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 小テスト及び期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の 活かし方					
履修上の 注意事項	板書を書き写すだけにならないように、講義・解説を見て聞いて、理解することを最重点とする。				

授業科目		システム開発		単位／時間		26時間	
開講学科等		システム工学科 1 年		担当教員		川久保 あゆみ	
授業の目的・テーマ		コンピュータの「システム開発分野に関する基礎知識」について学習する。					
授業の到達目標		以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験 3 級、2 級 1 部 国家試験・基本情報技術者試験 科目 A 免除試験					
授業の計画	1	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-1)	26			
	2	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-2)	27			
	3	1h	テキストⅡ システム開発技術(5-3)	28			
	4	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-4)	29			
	5	2h	テキストⅡ ヒューマンインタフェースとマルチメディア(1-1～1-4)	30			
	6	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-5, 5-6)	31			
	7	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-7)	32			
	8	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-8)	33			
	9	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-9)	34			
	10	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-10, 5-11)	35			
	11	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-1～6-3)	36			
	12	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-4～6-5)	37			
	13	5h	テキストⅡ 確認問題演習	38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義を中心に行う。					
テキスト		TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】					
参考文献		TAC科目A対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		コンピュータ業界・医療系システム開発等の経験を有する。					
実務経験の活かし方		テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。					
履修上の注意事項		復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。					

授業科目		情報管理と情報戦略		単位／時間		74時間	
開講学科等		システム工学科 1 年		担当教員		濱渦 昇	
授業の目的・テーマ		基本情報技術者試験の範囲、マネジメントとストラテジについて、各種技法と計算方法、用語を理解する。					
授業の到達目標		プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査、システム戦略、経営戦略、企業活動、法務の用語の意味を説明できる。各種技法の計算ができる。					
授業の計画	1	2h	プロジェクトマネジメントとは、PMBOKの概要、統合マネジメント	26	2h	品質管理の技法、その他の分析・図解技法	
	2	2h	スコープマネジメント、スケジュールマネジメント（作業量）	27	2h	減価償却とリース、損益分岐点分析	
	3	4h	スケジュールマネジメント（PERT、その他ツール）	28	2h	原価の計算	
	4	2h	コストマネジメント	29	2h	知的財産権	
	5	2h	リスクマネジメント	30	2h	セキュリティ関連法規、労働関連・取引関連法規	
	6	2h	調達マネジメント、サービスマネジメント、システム運用の基礎	31	2h	労働関連・取引関連法規、その他関連法規	
	7	2h	サービス運用とサービス以降のプロセスと機能	32	2h	前期試験復習	
	8	2h	サービス戦略とサービス設計のプロセス 1	33			
	9	2h	サービス戦略とサービス設計のプロセス 2	34			
	10	2h	システム監査の概要、システム監査の実施、内部統制	35			
	11	2h	情報システム戦略、ビジネスモデルとエンタープライズアーキテクチャ	36			
	12	2h	業務プロセス、	37			
	13	2h	システム活用促進・評価、システム化計画、要件定義	38			
	14	2h	調達計画と実施、経営戦略の基礎知識	39			
	15	2h	経営戦略の基礎知識、経営戦略手法	40			
	16	4h	マーケティング	41			
	17	2h	ビジネス戦略	42			
	18	2h	経営管理システム	43			
	19	2h	技術開発戦略	44			
	20	2h	ビジネスシステム	45			
	21	4h	エンジニアリングシステム	46			
	22	4h	e-ビジネス	47			
	23	2h	経営・組織論	48			
	24	4h	IEとOR	49			
	25	2h	品質管理の技法	50			
授業の方法		講義					
テキスト		TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅢ マネジメントと戦略編					
参考文献		なし					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 2. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		SE・プログラマとしてシステム開発を 5 年					
実務経験の活かし方		マネジメントやストラテジ技術が仕事の中でどのように使われているか具体例を挙げ説明する。					
履修上の注意事項		略語は英語のフルスペルと訳した意味の両方を覚える。配布する練習問題を保存していくこと。					

授業科目		パソコン演習【前期】			単位／時間		26時間	
開講学科等		システム工学科1年			担当教員		植田 祥平	
授業の目的・テーマ		様々なビジネスシーンで使用されるE x c e lの基本を学び、活用できるよう指導する。						
授業の到達目標		サーティファイE x c e l表計算処理技能認定試験3級の合格を目指す。（後期に受験）						
授業の計画	1	1h	1章	E x c e lの基礎知識	26			
	2	2h	2章	E x c e l入門	27			
	3	3h	3章	ワークシートの活用（1）	28			
	4	4h	4章	ワークシートの活用（2）	29			
	5	3h	5章	グラフ（1）	30			
	6	3h	6章	グラフ（2）	31			
	7	5h	7章	データベース	32			
	8	5h	8章	E x c e lの応用	33			
	9				34			
	10				35			
	11				36			
	12				37			
	13				38			
	14				39			
	15				40			
	16				41			
	17				42			
	18				43			
	19				44			
	20				45			
	21				46			
	22				47			
	23				48			
	24				49			
	25				50			
授業の方法		実技を中心に行う。						
テキスト		30時間でマスター Windows11/office365対応 Excel2021						
参考文献		サーティファイ E x c e l表計算処理技能認定試験3級 問題集						
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト						
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							○	
実務経験		銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。						
実務経験の活かし方		テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。						
履修上の注意事項		授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。						

授業科目		パソコン演習【後期】			単位／時間		76時間	
開講学科等		システム工学科1年			担当教員		植田 祥平	
授業の目的 ・テーマ		E x c e l 2 0 1 6 の基本的な操作方法と応用方法を習得する。						
授業の 到達目標		サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。						
授 業 の 計 画	1	3h	練習問題1（実践と解説）	26	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習		
	2	3h	練習問題2（実践と解説）	27	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習		
	3	3h	練習問題3（実践と解説）	28	2h	課題作成		
	4	3h	練習問題4（実践と解説）	29	2h	課題作成		
	5	3h	練習問題5（実践と解説）	30				
	6	3h	練習問題6（実践と解説）	31				
	7	3h	模擬問題1（実践と解説）	32				
	8	3h	模擬問題2（実践と解説）	33				
	9	3h	模擬問題3（実践と解説）	34				
	10	3h	模擬問題4（実践と解説）	35				
	11	3h	模擬問題5（実践と解説）	36				
	12	3h	模擬問題6（実践と解説）	37				
	13	3h	模擬問題7（実践と解説）	38				
	14	3h	模擬問題8（実践と解説）	39				
	15	3h	模擬問題9（実践と解説）	40				
	16	3h	模擬問題10（実践と解説）	41				
	17	3h	模擬問題11（実践と解説）	42				
	18	3h	模擬問題12（実践と解説）	43				
	19	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	44				
	20	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	45				
	21	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	46				
	22	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	47				
	23	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	48				
	24	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	49				
	25	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	50				
授業の方法		実技を中心に行う。						
テキスト		30時間でマスター Windows11/office365対応 Excel2021						
参考文献		サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級 問題集						
評価の方法 や基準		以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト						
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							○	
実務経験		銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機 応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。						
実務経験の 活かし方		テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。						
履修上の 注意事項		授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。						

授業科目		アルゴリズム		単位／時間		87時間	
開講学科等		システム工学科 1 年		担当教員		森下 浩二	
授業の目的・テーマ		アルゴリズム・C 言語の基本的な文法・処理の復習及び実力アップ					
授業の到達目標		サーティファイ情報処理技術者能力認定試験 1 級(2/8受験)、サーティファイC 言語プログラミング能力認定試験 3 級(2/4受験)の合格を目標とする。					
授業の計画	1	3h	基本アルゴリズムの復習	26	3h	対策問題	
	2	2h	基本アルゴリズムの復習	27	2h	対策問題	
	3	3h	基本アルゴリズムの復習	28	3h	対策問題	
	4	3h	基本アルゴリズムの復習	29	3h	対策問題	
	5	3h	基本アルゴリズムの復習	30	3h	対策問題	
	6	2h	基本アルゴリズムの復習	31	2h	対策問題	
	7	3h	基本アルゴリズムの復習	32	3h	対策問題	
	8	3h	C 言語基本文法の復習	33			
	9	2h	C 言語基本文法の復習	34			
	10	3h	C 言語基本文法の復習	35			
	11	3h	C 言語基本文法の復習	36			
	12	3h	C 言語基本文法の復習	37			
	13	2h	C 言語基本文法の復習	38			
	14	3h	C 言語基本文法の復習	39			
	15	3h	対策問題	40			
	16	3h	対策問題	41			
	17	2h	対策問題	42			
	18	3h	対策問題	43			
	19	3h	対策問題	44			
	20	2h	対策問題	45			
	21	3h	対策問題	46			
	22	3h	対策問題	47			
	23	2h	対策問題	48			
	24	3h	対策問題	49			
	25	3h	対策問題	50			
授業の方法		講義及び対策問題の実施と解説					
テキスト		無し					
参考文献		基本情報技術者アルゴリズムサポート（TAC）、情報処理試験合格へのサポートCプログラミング（ウイネット）					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 検定結果					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		講義及び解説時には話をよく聞き、理解に努めること。					

授業科目		データベース I		単位／時間		59時間	
開講学科等		システム工学科 1 年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		関係データベースで必要となる基本的なSQL文を習得する					
授業の到達目標		SQLの基本的な文法を習得し、データベース操作ができるようになる 前半は講義形式で行っていき、後半からは演習を行っていく					
授業の計画	1	3h	データベースとは 正規化について①	26			
	2	3h	正規化について② E-R図について	27			
	3	3h	SELECT文①	28			
	4	3h	SELECT文②	29			
	5	3h	副問い合わせ	30			
	6	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文	31			
	7	2h	CREATE TABLE文	32			
	8	3h	SELECT文実習①	33			
	9	2h	SELECT文実習②	34			
	10	3h	SELECT文実習③	35			
	11	3h	SELECT文実習④	36			
	12	3h	SELECT文実習⑤	37			
	13	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文実習	38			
	14	3h	CREATE TABLE文実習①	39			
	15	8h	総合演習①	40			
	16	8h	総合演習②	41			
	17	3h	期末演習課題	42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義・演習を中心に行う					
テキスト		無し					
参考文献		情報処理教科書データベーススペシャリスト・データベーススペシャリスト試験過去問題					
評価の方法や基準		以下の内容を個々に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		SEとしてシステム開発の経験を有する					
実務経験の活かし方		プログラミングの要であるアルゴリズムの重要性を伝えるとともに、処理の流れを丁寧に解説する					
履修上の注意事項		復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること					

授業科目		簿記		単位／時間		72時間	
開講学科等		システム工学科1年		担当教員		三浦 洋	
授業の目的・テーマ		商業簿記の基礎的知識の習得					
授業の到達目標		全経簿記能力検定3級の取得					
授業の計画	1	3h	概要、簿記とは、仕訳、勘定科目	26			
	2	3h	貸借対照表、損益計算書、現金	27			
	3	3h	当座預金、小口現金、小口現金出納帳	28			
	4	3h	費用と収益（租税公課）、三分法（分記法）	29			
	5	3h	掛取引、返品、売上原価対立法	30			
	6	3h	商品有高帳、貸付金と借入金	31			
	7	3h	未収金と未払金、前払金と前受金	32			
	8	3h	仮払金と仮受金、立替金と預り金	33			
	9	3h	総勘定元帳への転記、消費税	34			
	10	3h	株式会社の資本、株式の発行	35			
	11	3h	有価証券	36			
	12	3h	減価償却、固定資産台帳	37			
	13	3h	決算と残高試算表、精算表	38			
	14	3h	決算整理事項	39			
	15	3h	貸借対照表と損益計算書との関係	40			
	16	3h	売上原価	41			
	17	3h	貸倒れ、現金過不足	42			
	18	3h	消耗品、費用の繰延べ・見越し	43			
	19	3h	帳簿の締切り	44			
	20	3h	精算表の作成	45			
	21	3h	仕訳、B／S・P／L問題等	46			
	22	3h	学期末テスト	47			
	23	3h	個別問題Ⅰ	48			
	24	3h	個別問題Ⅱ	49			
	25			50			
授業の方法		講義及び答案練習					
テキスト		全経簿記能力検定3級テキスト及び全経簿記能力検定3級問題集					
参考文献		全経簿記検定3級過去問題					
評価の方法や基準		平常の授業態度及び学期末テスト結果					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		国税及び地方税の調査・徴収事務					
実務経験の活かし方		企業における会計の基本である簿記の重要性を学ぶ					
履修上の注意事項		電卓は必須、復習は宝、過去問題の答案練習は合格への近道					

授業科目		コミュニケーション		単位／時間		27時間	
開講学科等		システム工学科1年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的・テーマ		ワークショップを通して、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う					
授業の到達目標		以下のコミュニケーションスキルを身に付けさせる ・自身の考えや自身が持っている情報を正確に相手に伝えることができる ・相手の考えや相手が持っている情報を正確に聞き取ることができる					
授業の計画	1	3h	演習1「試合に間に合わせて」	26			
	2	3h	演習2「若い女性と水夫」	27			
	3	3h	演習4「学生寮 問題」	28			
	4	3h	演習6「アイドルはどこだ！」	29			
	5	3h	演習7「ビジネスパーソンに期待される能力」	30			
	6	3h	演習10「究極の選択」	31			
	7	3h	演習11「平成の歌姫を決めろ」	32			
	8	3h	演習13「報告ゲーム」	33			
	9	3h	演習14「マイドリーム15」	34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義、実習（課題作成）					
テキスト		なし					
参考文献		なし					
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の活かし方							
履修上の注意事項		実習に参加できていない学生が出ないように注意をする					

授業科目	国家試験対策Ⅰ（情報セキュリティ）			単位／時間	25時間
開講学科等	システム工学科１年			担当教員	濱渦 昇
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	3h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅰ(アルゴリズム)			単位／時間	54時間
開講学科等	システム工学科 1 年			担当教員	森下 浩二
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	3h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅣアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策Ⅰ（オブジェクト指向）			単位／時間	16時間
開講学科等	システム工学科 1 年			担当教員	内藤 正勝
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目		国家試験対策Ⅰ（模擬試験）			単位／時間		24時間	
開講学科等		システム工学科1年			担当教員		川村 剛久	
授業の目的・テーマ		基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。						
授業の到達目標		基本情報技術者試験合格を目標とする。						
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26				
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27				
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28				
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29				
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30				
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31				
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32				
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33				
	9			34				
	10			35				
	11			36				
	12			37				
	13			38				
	14			39				
	15			40				
	16			41				
	17			42				
	18			43				
	19			44				
	20			45				
	21			46				
	22			47				
	23			48				
	24			49				
	25			50				
授業の方法		模擬試験 実施・自己採点及び確認						
テキスト		無し						
参考文献		無し						
評価の方法や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。						
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する								
実務経験								
実務経験の活かし方								
履修上の注意事項		理解を深めるために復習を行うこと。						

授業科目		ビジネス実務Ⅰ（担任）		単位／時間		26時間	
開講学科等		システム工学科1年		担当教員		岡田 恭平	
授業の目的 ・テーマ		働くこと、生きることについての「考え方」「思い」を醸成させる					
授業の 到達目標		自己分析をし、自分がこれからどうなりたいかを考えることができる					
授 業 の 計 画	1	3h	今気になっていること	26			
	2	3h	キャリアアンカー	27			
	3	2h	わたしは誰	28			
	4	3h	もっともな、モットー	29			
	5	2h	始める一歩！	30			
	6	3h	自己PRについて	31			
	7	10h	自己PR作成	32			
	8			33			
	9			34			
	10			35			
	11			36			
	12			37			
	13			38			
	14			39			
	15			40			
	16			41			
	17			42			
	18			43			
	19			44			
	20			45			
	21			46			
	22			47			
	23			48			
	24			49			
	25			50			
授業の方法		講義及び実習					
テキスト		自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック					
参考文献		なし					
評価の方法 や基準		以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する					
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する							
実務経験							
実務経験の 活かし方							
履修上の 注意事項		これからの自分について真剣に考える					

授業科目		ビジネス実務Ⅰ（マナー等）				単位／時間			11時間		
開講学科等		システム工学科1年				担当教員			田中 佳代		
授業の目的 ・テーマ		・印象の良い身だしなみや立ち居振る舞いについて考え、自分で整えることができる ・ビジネス上の基礎的な振る舞いを知り、信頼される行動について考えられる ・新聞記事などから語彙や表現方法を知る									
授業の 到達目標		・場に応じた挨拶やお辞儀ができる ・身だしなみに気を付け、正しい言葉遣いを意識できる ・プリント管理や決められた提出期日を守ることができる									
授 業 の 計 画	1	4/14	1h	オリエンテーション、前期目標設定（ビジ実） 挨拶	26						
	2	4/28	1h	P1-6 マナーとは/言語化トレーニング	27						
	3	5/12	1h	P23-28 好印象とは/言語化トレーニング	28						
	4	5/19	1h	P29-32 言葉遣い/言語化トレーニング	29						
	5	5/26	1h	P38-34 聴き方話し方/言語化トレーニング	30						
	6	6/2	1h	学生言葉と会社での言葉遣いの違い 言語化トレーニング	31						
	7	6/9	1h	学生言葉と会社での言葉遣いの違い 言語化トレーニング	32						
	8	6/16	1h	P55-59 電話応対/言語化トレーニング	33						
	9	6/23	1h	P55-59 電話応対/言語化トレーニング	34						
	10	6/30	1h	P60-64 来客応対/言語化トレーニング	35						
	11	7/7	1h	前期試験/前期目標評価	36						
	12				37						
	13				38						
	14				39						
	15				40						
	16				41						
	17				42						
	18				43						
	19				44						
	20				45						
	21				46						
	22				47						
	23				48						
	24				49						
	25				50						
授業の方法		講義・ロールプレイング・グループワーク									
テキスト		日本マナー・プロトコル協会 マナー・プロトコル基礎知識									
参考文献		ウィネット 実践ビジネスマナー / 「デキる人の思考法」KADOKAWA									
評価の方法 や基準		出席率・授業態度・身だしなみ・プリント管理、提出物・テスト類 複数の担当教員が受けもつ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する									
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する										○	
実務経験		国際線機内におけるお客様対応、予備校校舎長として生徒指導、職業訓練校において受付・電話応対および生徒の面接指導を担当									
実務経験の 活かし方		実体験を交えて説明する									
履修上の 注意事項		できなかったことや失敗は隠したり胡麻化したりせず、自身の成長へのツールと捉え、前進することに利用してほしい。									